

ひがしやしき
東屋敷遺跡

所在地 豊橋市石巻町
(北緯34度47分22秒 東経137度26分15秒)

調査理由 道路改良工事(主) 東三河環状線

調査期間 平成21年10月～平成22年2月

調査面積 2,060㎡

担当者 池本正明・本田英貴



調査地点(1/2.5万「豊橋」)

調査の経過 調査は愛知県建設部道路建設課による県道東三河環状線の建設工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年11月から同22年3月にかけて実施された。調査面積は2,060㎡である。

立地と環境 東屋敷遺跡は、石巻山の西麓に広がり、三輪川右岸の河岸段丘南縁部に立地する。石巻山から連なる尾根の先端部に当たり、付近には石巻山登山口がある。周辺の台地端部には多くの遺跡が存在しており、西浦遺跡や高井遺跡群など、とくに弥生時代から古代にかけての遺跡が多い。

調査の概要 平成20年度に続き第2次調査となる今回の調査区は、平成20年度の調査区の北に隣接する範囲であり、平成20年度から連続する部分をA区、道路をはさんでA区の北に位置する部分をB区、さらに小道をはさんで北に位置する部分をC区として調査を行った。

弥生時代後期 A区南端部中心付近にやや大型の竪穴建物跡が確認された。隅丸方形を呈し、四隅に支柱穴が確認された。住居の南側から台付甕等が出土している。また南東隅に貯蔵穴を想起させる土坑がある。他にも竪穴建物跡と考えられる遺構が3棟検出されているが、いずれも基底部は確認できるものの出土遺物はなく時期は特定できない。

近世初頭 A区東北部に中世後期から近世初頭のものと思われる柱穴群が検出されており、掘立柱建物群が想定される。001SK、002SK、020SKは径、深さから大型の建造物の柱穴である可能性があるが、大部分が調査区外になるため確認はできない。

(本田英貴)



A区全景(南から)



弥生時代後期の竪穴住居跡183SI